

# 1. 評価結果概要表

平成 22年 3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470104955		
法人名	株式会社 ウエルネット		
事業所名	グループホーム ふかわの家		
所在地 (電話番号)	広島市安佐北区深川5-7-32 082-842-0066		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成22年3月25日	評価確定日	平成22年4月6日

## 【情報提供票より】(H22年3月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 11.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独型	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2 階建ての	1, 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	光熱 1日500 円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 120,000 円 )	償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	65 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	かいせいクリニック、井口クリニック、山村歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設5年目、地域に根ざしたホーム運営が進められている。「あたたかく、よりそう、笑顔と安心のサービス」を理念に、管理者以下全職員、意欲的に取り組んでいる。開所以来、「理念が実践できる体制づくり」(木目細かな勤務体制、職員のレベルアップ支援)に取り組み、着実に効果をあげている。ベテラン職員には余裕も感じられる。利用者にも元気な方が多く、ゆったりとしている。運営推進会議もうまく活用され、地域との温かい交流も深まっている。近隣からの提案もあり、過去1年7回避難訓練が実施された。芸備線の見える長閑な田園の中、近くには小学校、保育園、大型スーパー、今は四方満開の桜に囲まれるなど恵まれた環境にある。利用者は、地域に見守られながら、安心してゆったりと暮らすことのできるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の指摘点はユニット毎の自己評価実施と改善への取り組みであった。今回は改善され、それぞれユニット・リーダー中心の取り組みがなされている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を通じて、自分の仕事を冷静に見直す機会にし、よい点は継続し、問題点は改善に向けて取り組んだ。具体的には4名のリーダーで分担し、他の職員の意見も聞きながら集約された。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4) 2ヶ月に1回開催されている。自治会長、民生委員、市担当職員、地域包括センター職員、近隣住民などの他、不定期に医療関係者、消防署職員など幅広く参加してもらっている。ホームの状況報告や業界情報など幅広い意見交換をしている。最新では防災問題(近隣の要求で)を取り上げ、熱心に話し合い、防災対策強化に活かしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりについては、面接時の説明の他、毎月部屋担当職員が手紙を書き金銭管理報告定期便と一緒に郵送し、ご家族に喜ばれている。健康状況については、管理者が直接連絡している。苦情や意見は、出来るだけ直接聞くようにし、苦情等があった場合は、必ず書類に残し、検討の上、書面で回答している。「誰が・」をはっきりするため、全職員の顔写真をあちこち掲示している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事の他、一斉川清掃にも参加している。保育所や小学校の運動会にも出かけ、触れ合いを深める他、毎月のみつば会(地域高齢者の会)にも出席している。また、利用者も散歩時積極的に挨拶できるようになり、お花見に誘われたり、桜見にホームに来てもらったり、ご近所との温かい交流も深まっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念「あたたかくよりそう笑顔と安心のサービス」が設定されている。地域の中でその人らしく、気持ちよく暮らせるよう、理念をベースに、日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、スタッフルームに掲示すると共に、パンフレット・重要事項説明書にも記載されている。朝礼時での唱和、ミーティングでの確認など、機会あるごとに徹底され、共有化が図られ、職員は常に意識し実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の他、一斉川清掃にも参加している。保育所、小学校の運動会にも出かけ、触れ合いを深める他、毎月のみつば会(地域高齢者の会)にも出席している。また、利用者も散歩時積極的に挨拶できるようになり、お花見に誘われるなど、ご近所との温かい交流も深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義はよく理解されている。職員は評価を通じて、自分の仕事を冷静に見直す機会にしている。よい点は継続し、問題点は改善に向けて取り組んでいる。今回の評価は、4名のリーダーで分担し、その他職員の意見も聞きながら集約された。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。自治会長、民生委員、市担当職員、地域包括センター職員、近隣住民などの他、不定期に医療関係者、消防署職員など幅広く参加してもらっている。ホームの状況報告や業界情報交換の他、最新では防災問題(近隣の要求で)を取り上げ、熱心に話し合い、防災対策強化に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員には、可能な限り運営推進会議に出席してもらい、意見ももらっている。担当職員や生活課職員が来所する機会もあり、連携に努めている。研修会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、面接時の説明の他、毎月部屋担当職員が手紙を書き、金銭管理報告定期便と一緒に郵送し、ご家族に喜ばれている。健康状況については、必要に応じて、管理者が電話連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「声の箱」は設置しているが、苦情や意見は、出来るだけ面会時に直接聞くようにしている。苦情等があった場合は、必ず書類に残し、検討の上、書面で回答している。「誰が・」をはっきりするため、全職員の顔写真をあちこち掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	部屋担当を決め、馴染みの職員による支援に心がけている。離職などがあった場合は、出来るだけスムーズな引継ぎに心がけると共に、ベテランでフォローし、ダメージを少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3年育成計画を立て、社内・社外研修を積極的に受講するよう相談や情報提供を行なうと共に、報奨金制度も設定している。今年度、介護福祉士に7名挑戦するなど、職員の向上意識も強い。社内勉強会は年10回程度実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他業者に勉強会の講師を依頼したり、他のグループホームに利用者や職員と一緒に参加するなど交流を図っている。また、地域包括センターの応援を得て、地域ネットワーク(6事業所)づくりも3月より始めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるよう、入居時本人やご家族と充分話し合い工夫している。事前見学その他、希望があれば体験利用もしてもらっている。その他、利用者と馴染みの関係が持てるようコミュニケーションや声かけを大切に支援を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、人生の先輩として敬い、学びの心を持ち感謝の心で接している。共に喜び共に過ごす、簡単な調理や畑づくりを一緒に行ないながら、支えあう関係づくりを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、できるだけ生活歴や意向・希望を把握するようにしている。その後も、日々の会話の中から聞き取り把握につとめている。ご家族の意向も確認しながら、できるだけ本人の思いに沿った生活ができるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の一人ひとりが、自分らしく、より良く暮らせるケアのあり方について、本人、ご家族、医療機関ともよく話し合い、それぞれの意見を聞いた上で、具体的な介護計画が策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しも行われている。また、健康状態など急な変化が見られた時は、上記メンバーの他、訪問看護師、関係機関などとも協議し、現状に即した介護計画を策定している。		更には確かな計画見直しが出来るよう、課題進捗を定期的にフォローするための仕組み(モニタリングシステム)づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	プライベートな買い物外出や、緊急な本人・ご家族の要望については、その都度検討し、可能な限り柔軟に対応するよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医を確認し希望により継続、必要な情報も提供しながら、連携に努めている。提携医による定期的な往診、毎週1回の口腔ケア指導、鍼灸マッサージ師の訪問など適切な医療支援が行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常時治療が必要になったときは、退去・入院していただくことを、入居時に説明し納得してもらっている。その後については、利用者側から申し出があった時、担当医を含む関係者で充分話し合い、方針を決め、全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー・ポリシーを決めて掲示すると共に、マニュアルで指導を徹底させ、適切な言葉かけ、排泄支援や写真使用が心がけられている。個人記録などの個人情報も、すべて集中管理し、取り扱いには充分気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、その人らしい生活が出来るよう支援している。自分の思いが伝えにくい利用者についても、その表情や態度から読み取るよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、一緒に食事をとりながら、何気ない介助が行なわれ、楽しくゆったりとした食事になっている。出来る人には、簡単な調理、配膳準備や食器洗いなども、一緒にやってもらっている。食事を楽しむため、「カレーの日」、「お寿司の日」なども決めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	火曜日以外は、希望に応じて入浴してもらうよう支援している。季節に合わせ、菖蒲湯・ゆず湯、時には入浴剤を使用して変化を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、簡単な調理、準備や片付け、畑仕事、楽しみごとでは、生け花、カラオケ・折り紙・お彼岸のぼた餅や節分の巻き寿司づくりなど、利用者それぞれの力に応じて、役割や気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内に引きこもった生活にならぬよう、出来るときは、いつでも庭や近隣の散歩、買い物に出かけることが出来るよう支援している。面会時にもご一緒の外出を勧めている。この冬はインフルエンザと道路工事のため外出が減った。		散歩などの外出の他、少しでも外気に触れる時間が増えるよう、一層の工夫を望みたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は理解されており、日中玄関は施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主的避難訓練、消防署指導による避難訓練は、過去1年に7回実施された。その都度、実施計画策定と反省会が行なわれている。運営推進会議で出された近隣住民の要望でもあり、熱心に取り組まれており、災害発生時の地域救助協力体制づくりや連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	木金土の昼食は外注、それ以外は職員交代で献立をつくり、調理している。おかゆ、刻みなど能力に応じた調理も行われている。食事量、水分摂取量は詳細に把握され、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチン、リビングは広く明るい。玄関には生け花、リビングには、写真や季節の飾り、利用者の作品、など生活感が演出されている。すべての窓越しには、今や満開のしだれ桜と長閑な田園風景が見られるなど、全体として居心地よく過ごせる共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使い慣れた家具や仏壇、生活用品が持ち込まれている。沢山の写真や作品など思い思いの飾り付けがなされており、利用者が心地よく過ごせるスペースとなっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	(あたたかくよりそう) 理念を地域の中取り入れている。 日々のサービスに繋げるよう朝の申し送り時に唱和し理念の確認を行っている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に共有を図り、実践に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関・スタッフ事務所に理念を掲示し来客者からも見えるようにしている。 利用案内に記載している。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	努めている。 散歩時には利用者さんの方から積極的に挨拶できるようになった。		花火大会の誘い。 おはぎ作りをして利用者様と一緒に近所におすそ分けに廻っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	様々な地域の行事に参加するように努めている 地域の行事や川掃除の参加。 保育園・小学校の運動会見学をさせていただき毎月のみつば会(地域高齢者の集い)の案内をもらい出席している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議時地域に協力できることがあれば要望を聞きたい旨説明した。		夜間見回り等が必要な方があればふかわの家も協力したいと話しをしている。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を受けることにより、出来てないことを認識し、よい所は継続していくように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ニュースや最近の介護業界についての思いを聞きサービスの向上につながるようになっている マンネリ化しない様に不定期ではあるが、地域の医療関係者、消防職員の出席をお願いしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活課の担当者やかけはしの担当者の来所があり色々と話が出来ることがあり、アドバイスをいただける。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要とされる方には十分に理解して頂けるように努めさせていただく。全職員理解できている状態ではない。	○	地域包括の専門職員に勉強会時講師をお願いする。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についてのマニュアルを作成しマニュアルに基づいての勉強会を実施している。 申し送り時に虐待について話をしている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に説明を行っている 退所時に良好な関係が保てるように話し合いを、行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	入居者様の思いを聞き出すよう努めている 不満がある時は、家族とも相談して対応に努めている。家族様来所時には時間を作り要望等を聞きサービスの向上に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月部屋担当がお手紙にて近況報告している 金銭管理については毎月領収書のコピーお小遣い帳のコピーを送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	声の箱設置 家族面会時に生活していただくに当たり意見を聞くように努めている。 公共機関の相談窓口を運営規程に明記してある		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者・リーダー会議時はスタッフからの意見を議題に取り入れている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて柔軟な対応に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者がある時はスタッフ同士でフォローアップに努め不穏を与えない様に配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	相談や情報提供を行っている。 報奨金制度がある。 今年度は介護福祉士受験に6名挑戦した		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者に勉強会の講師を依頼したり、他グループホームの行事に利用者様とスタッフが一緒に参加している	○	地域包括の応援を得て地域密着サービス事業者のネットワーク作りを計画中である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩場所がある。 Drの協力を受けられるように取り組んでいる。 有給休暇の取得		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	経営者は職員の実績・努力を理解している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	傾聴に努め拒否しないように努めている。	○	今後も安定した生活が送れるように傾聴する力を付けるように努めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話を頂いたら必ず、見学のお願いをしている。 不安があればしっかりと思いを聞き安心してもら得るように配慮している		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が必要かを理解し、他のサービスを含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に訪問を行い又本にも見学頂き、希望があれば体験利用も利用できる。 他の入居者との馴染みの関係が持てるようにしている。生活歴から山登りが好きな方に部屋から山が見え様に段取りを行った。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事作業や畑作りを共に行い入居者から教えてもらう場面作りをしている。 学びの心を持ち感謝の気持ちで接している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の状況を理解し、相談・連絡を取り家族様と共に支える方向を重視している		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居者と家族の思いを受け止め、よい関係の維持に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの繋がりが切れないように、個々の対応に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の席や行事の時の席など、不快にならないように入居者同士の関係に配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	終了後も連絡を取り状況確認をしている。 入居様がお手紙を出されている 元入居者様と家族様が遊びに来る計画がある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を日々の会話の中から聞き取り、現在の生活について確認をしている。 家族意向も確認し問題点があれば検討をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報のみでは不十分な点があるので、ご家族様面会時に再度情報の把握に努めている。 お友達の面会時には楽しかった時代の思い出を聞き生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々観察をし、しっかりと会話し、記録や連絡ノートにて把握に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人と家族に意向を聞き医療機関からの注意事項を聞きながら作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	急を要する変化があれば、本人・家族・訪問看護師・関係機関と協議し見直しを行う。 退院時にはプランの見直しを行い安心して生活できるようにしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを確認しやすくし、プランに基づくサービスの提供に努めている。 良い工夫した事があれば連絡ノートで情報を共有し、サービス記録に記入し、介護計画の見直しに活かすように努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	あらゆる事に応じれる様に柔 軟性のあるサービスを取り入 れる努力をしている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、 民生委員やボランティア、警 察、消防、文化・教育機関等 と協力しながら支援している。	ボランティアの協力が増えて きた。地域のピアノ教室の生 徒さんの訪問がある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、 地域の他のケアマネージャー やサービス事業者と話し合い、 他のサービスを利用するための 支援をしている。	本人・ご家族様と必要に応じ 協議し調整をし、支援に努 めている。		
42	○地域包括支援センターとの協 働 本人の意向や必要性に応じて、 権利擁護や総合的かつ長期的 なケアマネジメント等について、 地域包括支援センターと協働 している。	認知症アドバイザーの講演な ど地域で認知症の人を支える 支援をしている。 運営推進会議に参加いただき アドバイスをしてもらって いる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるよう支援している。	入居時に、かかりつけ医を尋 ね継続できるよう支援し、情 報を提供し、かかりつけ医と の連携に努めている。 希望の無い場合は提携医の往 診を受け、適切な医療を受け られるようにしている。週1回 口腔ケア指導を取り入れて必 要であれば治療も可能。鍼灸 マッサージ師の訪問あり。	○	皮膚科を取り入れ支援できる ようにしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医の診断治療が必要なご利用者様には、外来受診・往診時・電話などに於いて適切な診断・治療が受けられるように支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	必要時には訪問看護の利用により、日常の管理や医療面の相談に乗ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご本人の様子を充分説明している。 入院中は面会に行き、状況を確認しながら家族様と相談しながら早期退院について支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化した場合の指針を説明し同意を戴いている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期を安心して過ごせるように、提携医・かかりつけ医とご家族様と連携に努めている。 緊急な状態が生じた時は速やかに対応する		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化に伴う精神的混乱を少なくするように、情報の提供に努めている。又住み替え後も関わりが持てるように努めている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個性・人格に配慮した対応をしている 個人情報保護に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	コミュニケーションをとりながら、希望や思いがあらわされる様にし、自己決定出来る様に支援している。 日々の会話から意図的に引き出すよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のペースを大事に可能な限り支援している。	○	もっと希望に添えるように考慮したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の思いを尊重しながらも、季節感のある衣服を着用するように声掛けをしている。 訪問利美容師にて本人の希望に沿って利用できている。 家族様が昔から通っている美容院に連れて行かれて本人の満足がある。(車椅子から車に移動する時はスタッフが美容院まで応援に行く)		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自発的に調理の手伝いや・お盆・お椀拭きなど日常家事作業として一緒に出来ている。 得意料理の時は台所に入り職員と一緒に食事作りをしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	以前は毎晩晩酌をされる方もいたが、現在は希望されない。タバコについては本人の意向を取り入れて、決まった場所で吸える様に支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限りトイレ誘導を行い排泄支援を行っている。排泄表に記録し利用者様に合った支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	火曜以外はゆっくりと入浴できるように希望に応じて支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の生活リズムを大切にし、睡眠がとれるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を把握しカラオケ・折り紙・行事の作品作り・畑仕事を提供している。 各季節の行事を行い楽しみの継続している 洗濯干し・お盆拭き等本人に応じた役割がある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を行える方には自己管理していただいている。買物や受診時にお金使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	庭の散歩や近隣の散歩の支援している。新型インフルエンザ感染予防の為、人混みの外出は控えたので希望に添えない事が多かった。	○	新型インフルエンザの問題があり外出レクが出来なかったが今後は感染の危険を考慮しながら、外出レクを増やせるかの検討が必要。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	面会時に家族様と共に外出できるように支援を行いたいのが新型インフルエンザ感染予防の為家族様のほうから外出は控えます。と話され外出の機会が少なくなった。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用は本人が使用できるように支援している。必要であれば介助にて対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの関係が継続できるように、又気軽に来訪をしていただく為に、職員も短時間話に加わり馴染みの関係を保つように配慮している。玄関にスタッフの顔写真に名前を入れ掲示している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践している。今後も継続していく。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は夜間のみ行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で入居者さんがどこにいるのか、確認しあっている。職員と一緒に場所移動をする時は必ず報告をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品は定位置に保管している。使用に際しては見守りをしながら使用していただいている。たばこを吸う利用者のライターは職員で管理しているが使用時には手渡し本人が使えるようにし、使用後は職員に返してもらい定位置に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを話し合い事故防止のために今後の対策を検討している。 マニュアルに基づいて勉強会を実施している。 火災時避難訓練は定期的実施している		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルに基づいて勉強会を実施している マニュアルを作成し常時確認できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練の実施。消防署の訓練・勉強会にて意識の向上に努めている。 運営推進会議時に協力をお願いをしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	想定されるリスクについて家族様に説明してその人らしく暮らせるように話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝夕のバイタルチェックを行い体調の変化・異変の発見に努めている。必要によっては、かかりつけ医・提携医・家族と相談して速やかな対応に努めている。 訪問看護師により週2回日常健康管理を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局からの処方箋をサービス記録ファイルに入れ確認できる様にしている。変化があるときはDrに相談し、指示を受けるようにしている。 服薬確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分の摂取や入浴時に腹部マッサージなどに努めている。 食材についても考慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後声掛けにて出来る限り本人にしてもらい困難方については介助を行っている 訪問歯科の指導を受けている。		入居時口臭の強かった利用様も毎食後の口腔ケアにより口臭が軽くなっている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状態に応じた食事量を把握している。 水分確認表にて水分量を把握している。 食事形態の変更にも速やかに対応している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手順書にて全職員取り組んでいる。 スタッフ及び家族内に感染症が発生した時は、出勤停止にし、状況の報告をするようにしている。 スタッフは常時マスクを着用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理手順書にて全職員取り組んでいる。 2日毎の買物にて管理している。 ジアノック消毒・プラス消毒液や食器乾燥機による熱処理を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門扉は常時開放している。 玄関入り口には花壇作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には生花を飾り、共用の空間には季節の飾りをし、カレンダーを壁面に多く取り付けている。 照明やカーテンの使い分けにより居心地よく過ごせるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓席だけでなくソファや長いすを置き自由に使用できるようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具・寝具の使用をお願いし安心して過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓の開放や、加湿器・除湿機・空気清浄機を使用している。温度計や利用者様の状態にて管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立歩行であるが足元の不安定な利用者でもトイレ内・浴室にも手摺が付いている。利用者の状態に応じた日常家事作業が出来る様に配慮している。(洗濯干しなど)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来る行動を十分に活用するように、常に声掛けをして自立出来るように支援している。混乱するような時はしっかりと説明し納得出来る様に繰り返し、失敗があっても本人を傷つけないように配慮に努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や畑づくりをし、種まき、草取り、収穫している。ウッドデッキにプランターを置き花に直接触れられる様にして本人の思いでウッドデッキに出れるようにしている。		

**V サービスの成果に関する項目**

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ○ ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○ 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	② ほぼ全ての利用者の ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ② ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	(あたたかくよりそう) 理念を地域の中取り入れている。 日々のサービスに繋げるよう朝の申し送り時に唱和し理念の確認を行っている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に共有を図り、実践に努めている。	○	新しいスタッフが入ってきたら、全スタッフが原点に帰り再確認しできるようにする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関・スタッフ事務所に理念を掲示し来客者からも見えるようにしている。 利用案内に記載している。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	努めている。 散歩時には利用者さんの方から積極的に挨拶できるようになった。 今年も桜が咲く時期が近づいてきたので、みなさんで見てください。と近隣の方からの話があった。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	様々な地域の行事に参加するように努めている 地域の行事や川掃除の参加。 保育園・小学校の運動会見学をさせていただく 毎月のみつば会(地域高齢者の集い)の案内をもらい出席している。	○	生徒、園児の交流を今後もっと深めていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議時地域に協力できることがあれば要望を聞きたい旨説明した。		夜間見回り等が必要な方があればふかわの家も協力したいと話しをしている。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を受けることにより、出来てないことを認識し、よい所は継続していくように取り組んでいる。評価の意義を管理者・リーダーは理解している。		22年3月の管理者・リーダー会議に於いて評価の必要性・意義を社長からの話があった。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ニュースや最近の介護業界についての思いを聞きサービスの向上につながるようになっているマンネリ化しない様に不定期ではあるが、地域の医療関係者、消防職員の出席をお願いしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活課の担当者やかけはしの担当者の来所があり色々と話が出来ることがあり、アドバイスをいただける。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要とされる方には十分に理解して頂けるように努めさせていただく。全職員理解できている状態ではない。	○	地域包括の専門職員に勉強会講師をお願いする。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についてのマニュアルを作成しマニュアルに基づいての勉強会を実施している。 申し送り時に虐待について話をしている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に説明を行っている 退所時に良好な関係が保てるように話し合いをし、個別の取り組みや配慮に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	入居者様の思いを聞き出すよう努めている 不満がある時は、家族とも相談して対応に努めている。家族様来所時には時間を作り要望等を聞きサービスの向上に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月部屋担当者がお手紙にて近況報告している 金銭管理については毎月領収書のコピーお小遣い帳のコピーを送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	声の箱設置 家族面会時に生活していただくに当たり意見等を聞くように努めている。 公共機関の相談窓口を運営規程に明記してある		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者・リーダー会議時はスタッフからの意見を議題に取り入れている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じてスタッフの配置を柔軟に行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者がある時は引き継ぎするスタッフとの係わりがスムーズに出来るように支援している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	相談や情報提供を行っている。 報奨金制度がある。 今年度は介護福祉士受験に6名挑戦した		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者に勉強会の講師を依頼したり、他グループホームの行事に利用者様とスタッフが一緒に参加している	○	地域包括の応援を得て地域密着サービス事業者のネットワーク作りを計画中である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩場所提供が出来る様になった。 Dr の協力を受けられるように取り組んでいる。 有給休暇の取得。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	経営者は職員の実績・努力を理解している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	傾聴に努め本人の望んでいる事不安な事を会話しながら、受け止めるように努めている。	○	今後も安定した生活が送れるように傾聴する力を高めるように努力する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話を頂いたら必ず、見学のお願いをしている。不安があればしっかりと思いを聞き安心してもら得るように配慮している		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が必要かを理解し、他のサービスを含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に訪問を行い又本にも見学頂き、希望があれば体験利用も利用できる。 他の入居者との馴染みの関係が持てるようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事作業や畑作りを共に行い入居者から教えてもらう場面作りをしている。 学びの心を持ち感謝の気持ちで接している。 家族として、喜怒哀楽を共に受け止めるよう努力している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の状況を理解し、相談・連絡を取り家族様と共に支える方向を重視している		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居者と家族の思いを受け止め、よい関係の維持に努めている。 面会時には家族様と一緒にお茶タイムをして頂きながらコミュニケーションが取れるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの繋がりが切れないように、個々の対応に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の席や行事の時の席など、不快にならないように入居者同士の関係に配慮している。 身体レベル、認知度を考慮して楽しく過ごせるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	終了後も連絡を取り状況確認をしている。 他施設へ面会に行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を日々の会話の中から聞き取り、現在の生活について確認をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報のみでは不十分な点があるので、ご家族様面会時に再度情報の把握に努めている。 お友達の面会時には楽しかった時代の思い出を聞き生活歴の把握に努めている。 写真を部屋に飾り思い出の写真の中から生活歴を確認できるようにしている利用者様がある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々観察をし、しっかりと会話し、記録や連絡ノートにて把握に努めている。	○	もっと出来る可能性を見出し生活の活性化に繋げるように努める。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人と家族に意向を聞き医療機関からの注意事項を聞きながら作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	急を要する変化があれば、本人・家族・訪問看護師・関係機関と協議し見直しを行う。 3ヶ月ごとに見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを確認しやすくし、プランに基づくサービスの提供に努めている。 良い工夫した事があれば連絡ノートで情報を共有し、サービス記録に記入し、介護計画の見直しに活かすように努めている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	あらゆる事に 応じる様に柔軟性のあるサ ービスを取り入れる努力を している。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文 化・教育機関等と協力し ながら支援している。	ボラン ティアの協力が増えてきた。 地域のピアノ教室の生徒 さんの訪問がある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケア マネージャーやサービス事 業者と話し合い、他のサ ービスを利用するための 支援をしている。	本人・ご 家族様と必要に応じ協議 し調整をし、支援に努 めている。		
42	○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地 域包括支援センターと 協働している。	認知症 アドバイザーの講演など 地域で認知症の人を支 える支援をしている。 運営推進会議に参加 いただきアドバイスを してもらっている。	○	包括の 支援のもとに圏域小規 模事業所とのネット ワーク作り。 包括には各専門職が 在職されているので、 勉強会の講師を依頼 する。
43	○かかりつけ医の受診 支援 本人及び家族等の希望 を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事 業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受け られるよう支援してい る。	入居時 に、かかりつけ医を尋ね 継続できるよう支援し、 情報を提供し、かかり つけ医との連携に努 めている。 希望の無い場合は提 携医の往診を受け、適 切な医療を受けられる ようにしている。週1 回口腔ケア指導を取 り入れて必要であれば 治療も可能。鍼灸マ ッサージ師の訪問あり。		
44	○認知症の専門医等の 受診支援 専門医等認知症に詳しい 医師と関係築きなが ら、職員が相談したり、 利用者が認知症に関 する診断や治療を受け られるよう支援してい る。	専門医 の診断治療が必要な ご利用者様には、外 来受診・往診時・電 話などに於いて適切 な診断・治療が受け られるように支援 している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	必要時には訪問看護の利用により、日常の管理や医療面の相談に乗ってもらっている。 地域の訪問看護ステーションと連絡と取り合い、病状の変化をかかりつけDrに報告してもらい適切な医療に繋がっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご本人の様子を充分説明している。 入院中は面会に行き、状況を確認しながら家族様と相談しながら早期退院について支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化した場合の指針を説明し同意を戴いている。 家族の意向、医療関係者と対応方針を話し合い情報の共有に努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期を安心して過ごせるように、提携医・かかりつけ医とご家族様と連携に努め出来る事、困難な事を話し合うように努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化に伴う精神的混乱を少なくするように、情報の提供に努めている。又住み替え後も関わりが持てるように努めている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個性・人格等に配慮しプライバシーを守るように努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	コミュニケーションをとりながら、希望や思いがあらわされる様にし、自己決定出来る様に支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人に合った生活リズムに配慮しているつもりであるが、時々スタッフの都合で段取りをしている事がある。	○	もっと希望に添えるように特に自分の思いを伝える事が困難な利用者の希望に添えるように、表情や態度から読み取れるよう努力する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の思いを尊重しながらも、季節感のある衣服を着用するように声掛けをし、支援をしている。訪問利美容師にて本人の希望に沿って利用できている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自発的にお盆・お椀拭きなど日常家事作業として一緒に出来ている。 調理の下準備や味見等を行っている。	○	男性入居者にも、スタッフと共にもっと調理の手伝いが出来るように努めて行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	以前は毎晩晩酌をされる方もいたが、現在は希望されない。タバコについては本人の意向を取り入れて、決まった場所で吸える様に支援している。 おやつなど昔食べた思い出の物を季節に応じて楽しんで頂けるように努めている。	○	医療的にお酒・食べ物の制限のある方がおられるので、難しいところがあるが、出来るだけ取り組むように配慮していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限りトイレ誘導を行い排泄支援を行っている。排泄表に記録し利用者様に合った支援をしている。オムツが必要な利用者にはパンツ・リハパン・尿取りパット等を使用し、夜間・日中の区別に取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	火曜以外はゆっくりと入浴できるように希望に応じて支援している。季節に合せ菖蒲湯・ゆず湯・時には入浴剤などを使い、変化を付けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	空間作りにてゆっくりと休息をしていただいたり、眠れるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を把握しカラオケ・折り紙・行事の作品作り・畑仕事を提供している。各季節の行事を行い楽しみの継続している洗濯干し・お盆拭き等本人に応じた役割がある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を行える方には自己管理していただいている。買物や受診時にお金使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	庭の散歩や近隣の散歩の支援している。新型インフルエンザ感染予防の為、人混みの外出は控えたので希望に添えない事が多かった。	○	新型インフルエンザの問題があり外出レクが出来なかったが今後感染の危険性を考えながら、外出の頻度を増やすか検討が必要である。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	面会時に家族様と共に外出できるように支援を行いたいが新型インフルエンザ感染予防の為家族様のほうから外出は控えます。と話され外出の機会が少なくなった。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用は出来るご本人が使用できるように支援している。必要であれば介助にて対応している。 入居当初携帯電話を持ち込まれていたが、本人が「必要無い」とのことで家族が持ち帰られた。 手紙はいつでも本人の希望に沿って支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの関係が継続できるように、又気軽に来訪をしていただく為に、職員も短時間話に加わり馴染みの関係を保つように配慮している。 玄関にスタッフの顔写真に名前を入れ掲示している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを使い勉強会を行い身体拘束をしないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は夜間のみ行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で入居者さんがどこにいるのか、確認しあっている。利用者のサインを察知するように努め安全に配慮している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品は定位置に保管している。使用に際しては見守りをしながら使用していただいている。 お手紙の開封時は錠を渡しスタッフ見守りにて開封し開封後は定位置に戻すようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを話し合い事故防止のために今後の対策を検討している。 マニュアルに基づいて勉強会を実施している。 火災時避難訓練は利用者と一緒に定期的に行っている		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルに基づいて勉強会を実施している マニュアルを作成し常時確認できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練の実施。消防署の訓練・勉強会にて意識の向上に努めている。 運営推進会議時に協力をお願いをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	想定されるリスクについて家族様に説明してその人らしく暮らせるように話している。 状況に変化があれば再度リスクについて話し合いをしリスクの軽減に取り組んでいる。	○	今後リスク管理の充実を図る
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝夕のバイタルチェックを行い体調の変化・異変の発見に努めている。必要によっては、かかりつけ医・提携医・家族と相談して速やかな対応に努めている。 訪問看護師により週2回日常健康管理を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局からの処方箋をサービス記録ファイルに入れ確認できる様にしている。変化があるときはDrに相談し、指示を受けるようにしている。 服薬確認を行っている。	○	使い慣れている塗り薬容器に等に、使用個所を表示してない事があるので、再度確認し表示するように取り組む
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分の摂取や入浴時に腹部マッサージなどに努めている。 食材についても考慮している。 ホール内の歩行練習で運動不足にならない様にしたり、2階に上がる時は、階段を利用するなどで身体を動かすように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後声掛けにて出来る限り本人にしてもらい困難方については介助を行っている 訪問歯科の指導を受けている。		入居時口臭の強かった利用様も毎食後の口腔ケアにより口臭が軽くなっている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状態に応じた食事量を把握している。 水分確認表にて水分量を把握している。 食事形態の変更にも速やかに対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手順書にて全職員取り組んでいる。 スタッフ及び家族内に感染症が発生した時は、出勤停止にし、状況の報告をするようにしている。 マニュアルに基づいて勉強会を行っている。 感染状況を朝の申し送り時に確認し現在どの様な感染があるか伝えている。 スタッフは常時マスクを着用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理手順書にて全職員取り組んでいる。 2日毎の買物にて管理している。 ジアノック消毒・プラス消毒液や食器乾燥機による熱処理を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門扉は常時開放している。 玄関入り口には花壇作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には生花を飾り、共用の空間には季節の飾りをし、カレンダーを壁面に多く取り付けている。 照明やカーテンの使い分けにより居心地よく過ごせるように配慮している。 月2回お花を生け居室に飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓席だけでなくソファや長いすを置き自由に使用できるようになっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具・寝具の使用をお願いし安心して過ごせるように配慮している。 本人の写真をパネルにして壁に掛けてある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓の開放や、加湿器・除湿機・空気清浄機を使用している。温度計や利用者様の状態にて管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内には手すりを取り付けている 利用者の状態に応じた日常家事作業が出来る様に配慮している。(洗濯干しなど)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来る行動を十分に活用するように、常に声掛けをして自立出来るように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や畑づくりをし、種まき、草取り、収穫している。 ベランダに布団を干す時は利用者と共に外側の風景や季節の移り変わりを見て会話を行うように努めている。		

**V サービスの成果に関する項目**

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ○ ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○ 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	② ほぼ全ての利用者の ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ② ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目